

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

No.638

★「読書グループお名前調査」総合結果(5頁)

★2021こどもの読書週間・読書週間 標語決定(8頁)

定価 60円

会員の購読料は
会費の中に含まれる



年頭所感

豊かな「読書体験」の創出を目指して

公益社団法人 読書推進運動協議会副会長
一般社団法人 日本出版取次協会会長

ひらばやし
平林 彰
あきら

あけましておめでとうござ
います。

平素より読書推進運動協
会の活動に多大なるご支援
ご協力を賜り、あつくお礼申
しあげます。

2019年の本紙年頭所感
で、私は社会全体が「分断」
の空気に覆われはじめてい
ることへの危惧について述べま
した。しかしその翌年、今度
は新型コロナウイルスによる
物理的な「分断」を強いられ
ることになるうとは、予想だ
にしませんでした。だれも経
験したことのない事態に直面
し、未来の予測も立たないな
かで、新たな常識や生活様式
への適応を求められる、苦難
の一年でありました。

その一方で、コロナによ
る社会の変化に伴って、本

の価値が見直されはじめた
ように感じます。日本財団が

2020年9〜10月に行つた
「18歳意識調査 第30回―読
む・書く―」(対象…全国の
17歳〜19歳男女)によれば、
回答者のおよそ4人に1人に

あたる24.9%が、コロナ禍
の影響で読書量が増えたと回
答しています。実際に、日本
出版販売調べの「店頭売上前
年比調査」では、2020年
5月から11月まで7か月連続
で前年の売上を超えるという
結果が 나왔ました。外出自粛を
強いられた人々の多くが「菓
ごもり」の友として本を選ん
だという、非常に勇気づけら
れる結果でした。

また、記憶に新しいニュー
スとして、2020年11月
に童心社の絵本『いないい

ないばあ』(松谷みよ子・ぶ
ん、瀬川康男・え)の累計発
行部数が、日本の絵本で初め

て700万部を超えました。絵
本はロングセラー作品の多
いジャンルと言われますが、
1967年に刊行された本書
が、じつに半世紀以上にもわ

たり、多くの子どもたちを笑
顔にしてくれたという事実
は、あらためて驚かされます。
また『鬼滅の刃』が社会現象
と呼ぶにふさわしい歴史的な
ヒットを記録したことも、明
るい話題となりました。
こうしたニュースは、コロ
ナのような厳しい状況下にお
いても、本が人々に求められ
ているということを示してい
ます。同じように、読書推進
運動もまた、社会がどのよう
な状況に置かれても、決して

な状況に置かれても、決して

その意義を失わないといえる
のではないのでしょうか。

毎日新聞社が過去に実施し
た「読書世論調査」によれ
ば、子どものころによく絵本
を読んでもらったという人ほ
ど、書店を訪れる頻度が高い
傾向にあるといえます。つま

り、子どものころの読書体験
が、その後の人生における本
との関わりに大きく影響する
ということですね。「未来の読
者を育てる」という観点で、
読書推進運動は、出版業界に
とって非常に大切なことで
す。そしてなにより、その人
の知性や感性を育み、人生を
よりいっそう豊かなものとす
る、大きなきっかけともなり
ます。その機会の創出こそが、
私たち読進協の目指すところ
であり、使命であると考えま
す。

対面のコミュニケーション
が制限されるという前代未聞
の困難のなかではあります
が、会員のみならず、そして
全国のみならずとも、豊
かな「読書体験」の創出に尽
力してまいります。

■公益社団法人読書推進運動協議会 全体事業委員会

短時間で集中した標語選定と コロナ下での活動報告

2020年12月8日(火)、東京都千代田区の出版クラブビルで、公益社団法人 読書推進運動協議会の事業である、2021年度春の「第63回 こどもの読書週間」および秋の「第75回 読書週間」の標語選定事業委員会が開かれた。

今回は感染症対策で短時間での開催となったため、議事進行の効率化を図り選定手順を見直し、事前に3次投票までを済ませ、当日は3次投票の集計結果をもとに4次投票、決選投票を行った。その結果、あわせて2600点近くの応募作の中から、それぞれ入選作が決定した(本紙8ページ参照)。

続いて行われた2020年度全体事業委員会では、2020年度の事業報告および2021年度の事業委員会日程について、事前に資料を配布して報告に替えた。

10月には機関紙別冊「こどもの読書週間 行事報告」を刊行。今年度の行事主催者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら昨年の1981件から820件に減少した。

4月23日～5月12日に行われた「第62回 こどもの読書週間」の標語は「出会えたね」とびっけりの1冊に。ポスターは今度も、好評をいただいている荒井良二さんのイラスト、杉浦康平さんのデザ

インで制作し、6万部を配布した。10月には機関紙別冊「こどもの読書週間 行事報告」を刊行。今年度の行事主催者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら昨年の1981件から820件に減少した。

「第50回 野間読書推進賞」は9月14日に選考会、11月6日に贈呈式を開催し、本賞2団体、特別賞1団体を顕彰した。

「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレットは10月23日に書目を決定し、21万8000部を印刷、12月より配布を開始しているが、こちらも成人式開催の代わりにプレゼントしたいという自治体が多くなっている。また、高校、大学からの送付希望も例年より早いペースでよせられている。



「読書週間」「こどもの読書週間」ポスター

「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレットは10月23日に書目を決定し、21万8000部を印刷、12月より配布を開始しているが、こちらも成人式開催の代わりにプレゼントしたいという自治体が多くなっている。また、高校、大学からの送付希望も例年より早いペースでよせられている。『2018年度版 全国読書グループ総覧』は、専門の研究者の考察などを掲載した記念号として、2020年6月15日付で発行した。

■〈大震災〉 出版対策本部

10年間の活動へのご協力 ありがとうございます

公益社団法人 読書推進運動協議会は、出版3団体(一般社団法人 日本書籍出版協会、一般社団法人 日本雑誌協会、一般財団法人 日本出版クラブ)が2011年3月23日に発足させた「大震災」出版対策本部の事務局に参加し、2013年より公益目的事業として「大震災出版復興基金」の口座管理を担ってきました。

10年が経過して現地の復興も進み、一応の使命を達成したことから、「大震災」出版対策本部では2021年3月末をもって活動を終了することといたしました。あわせて「大震災出版復興基金」も清算することになり、読進協では理事会の決議を経て、公益目的事業の終了に必要な手続きである「変更認定申請」を主務官庁の内閣府に提出、現在審査中です。清算に先立ち、同基金への寄付受付も昨年11月末で停止しました。

これはみなさまからお預かりした寄付金を活用し、東日本大震災で特に大きな被害をうけた地域の「読書環境の復活」「図書館環境の復活」「人々の心の復活」を進めようというものです。

長年にわたるご寄付とご協力ありがとうございます。

岩手・宮城・福島の被災3県をおもな活動対象エリアとして、各避難所などへの図書寄贈、震災遺児たちへのクリスマス図書カードプレゼント、被災地学校図書館・公立図書館への本や図書カード寄贈、「マンガでつなGO東北」コミックトレイン運行・著者サイン色紙展開催(2016年)などの活動に役立ててまいりました。

長年にわたるご寄付とご協力ありがとうございます。



人気キャラクターでラッピングされたコミックトレイン

岩手・宮城・福島の被災3県をおもな活動対象エリアとして、各避難所などへの図書寄贈、震災遺児たちへのクリスマス図書カードプレゼント、被災地学校図書館・公立図書館への本や図書カード寄贈、「マンガでつなGO東北」コミックトレイン運行・著者サイン色紙展開催(2016年)などの活動に役立ててまいりました。

「第106回 全国図書館大会 和歌山大会」

コロナ禍のなか、 新たな図書館の役割を模索

「第106回 全国図書館大会 和歌山大会（主催：同実行委員会）」が2020年11月20日（金）〜30日（月）にかけて、オンラインで開催された。全国図書館大会がオンラインで開催されるのははじめて。参加者は期間内に基調報告や分科会などを自由に視聴した。ここ数年の大会のなかでも、多くの参加者が集まったという。一部の分科会では、日時を定めて研究協議を行い、発表者・視聴者双方が意見を交換する場も設けられた。

大会テーマは、「図書館の歩みとこれから―南葵（なんき）から新しい時代へ想いを繋げる―」。この1年間の動きをまとめた基調報告を、公益社団法人 日本図書館協会の小田光宏理事長が行った。小田理事長は、冒頭でコロナ禍のなか、オンライン開催にこぎ着けた実行委員会および関係者へ感謝とねぎらいの言葉を贈った。今年には「コロナ禍のなか、図書館への重要性が再確認され、多様な可能性への期待が広がり、図書館サービスの多様性があらためて

問われる一年」であり、特に求められている読書・リアフリーの実現へむけて技術向上への取り組みが必要であることや、感染症対策をとりながら図書館の開催を持続するための課題などがあげられた。

慶應義塾大学名誉教授の美山良夫さんの記念講演『理想』の図書館をもとめて」では、現在、和歌山県立図書館に所蔵されている「南葵音楽文庫」を収集した紀州徳川家の徳川頼貞と、その父親で東京都麻布の自宅敷地に私設図書館「南葵文庫」を設置し、日本図書館協会総裁（当時）も務めた徳川頼倫について紹介。明治〜大正にかけての短い期間ではあったが、性別・年齢問わず利用でき、図書閲覧だけではなく庭園の散策や食事も楽しめる「図書の閲覧を中心としたライフスタイル」を実現した南葵文庫の「個人が設置した図書館ならではの先駆性」は、新しい時代の図書館に繋げていけるのか考えてみたいと、述べた。分科会は全部で12。第9分科会「図書館災害対策」では、「災害と



日本図書館協会 小田理事長の基調報告の収録の様子

感染症」について感染症の専門家が、日常活動を維持しつつ感染予防を実践する社会システムについてのこれまでの事例や、その実現に向けて図書館に期待することを紹介。そのほかの分科会でも、コロナ禍のなかでの実践事例や、課題などが話題となり、現在の問題点とコロナ後の図書館のあり方について、さまざまな観点から考える機会にもなった。

大会ホームページの視聴用ページには、動画だけでなく参考資料、視聴覚障がい者向けの発表内容の要旨テキストファイルなども用意された。

第107回となる来年の全国図書館大会は、山梨県で開催予定。こちらも、オンライン開催の方向で準備を進めているという。

「JBBY 世界の子どもの本講座」

子どもの本の城 児童図書館を紹介

ミュンヘン国際

一般社団法人 日本国際児童図書評議会（JBBY）は、2020年12月5日（土）、JBBY 世界の子どもの本講座「ミュンヘン国際児童図書館（IJB）」と「ホイット・レイブズ」をオンラインで開催した。講師はIJB日本部門担当の中野恰奈さん。

IJBはドイツ・ミュンヘンにある、世界最大の児童図書館。中野さんは、IJBの資料は各国の出版社から寄贈されていること、世界各国の児童図書研究者・編集者などを研究生として迎えていること、ミュージアムや展示会など館内の様子などを紹介した。



「虫」の本の展示では、今森光彦さんの本を参考にして作った紙の虫が飾られた

中野さんの業務は、日本国内で出版された図書から、IJBが所蔵すべき図書を選び、出版社に献本を依頼することや、日本語図書に関するレファレンスなど。なかでも重要な仕事として、各国語部門担当者が担当言語で出版された児童書から、特に他国に紹介したい本を選んだ国際推薦児童書目録「ホイット・レイブズ」について説明。中野さんはIJBが提示している国や言語を越えたテーマの普遍性、文学性、デザイン性に加え、さまざまな境界を越え外に開かれた作品か、ヒューマニティーに根ざしているか、子どもの居場所や心の世界が大切にされているかなどを基準にしている」と述べた。各国から作家を招き、子どもたちと交流を深める隔年の「ホイット・レイブズ・フェスティバル」についても紹介した（2020年は中止）。

特別ゲストに酒寄進一さん、那須田淳さん、ガンツェンミューラー文字さんも登場し、IJBでの思い出などを披露した。

大阪国際児童文学振興財団 移転10周年

つぎの10年にむかって
新たな取り組みを展開中！

2010年に大阪府吹田市から東大阪市にある大阪府立中央図書館内に移転した一般財団法人大阪国際児童文学振興財団は、2020年に移転10周年を迎えた。同年4月からは、YouTube公式チャンネルを開設し、毎週金曜日に「YouTube 版本の海大冒険(絵本編・読物編・YA編・科学編)」を、毎月10日には大人対象に「新刊子どもの本」がオススメ!」を配信している。公開内容の1覧は、同財団ホームページに掲載され、動画へリンクしている。



「子どもの本の現在と未来」は2月1日まで、講演会「しかげ絵本に驚く、楽しむ」は2月25日まで配信

インフォラーム「子どもの本の現在(いま)と未来(これから)」を2月1日(月)まで配信中(視聴申込は1月26日(火)まで)。同財団総括専門員の土居安子さんの司会で、翻訳者の宇野和美さん、児童文学作家の富安陽子さん、日本児童図書出版協会会長の竹下晴信さん、同財団理事長の宮川健郎さんが、さまざまな角度から子どもの本の現在と展望を語っている。視聴料は1300円。同財団のホームページより申し込める。

同財団では、さらなる子どもの本・子どもの文化の振興に関わる活動をより豊かに展開する「新しい10年」にむけ、個人・法人から広く寄付を募集している。目標金額は500万円。年間1万円以上の寄付をすると、クリアファイルや缶マグネットなどのオリジナルグッズが3つ、プレゼントされる。こちらも、同財団ホームページに詳細が掲載されている。

●大阪国際児童文学振興財団
ホームページ
www.iiclo.or.jp

全国SLAブックガイド刊行

学校図書館現場から生まれた
よりそうブックガイド

公益社団法人全国学校図書館協議会(全国SLA)は、2020年11月に『青春の本棚』中高生に寄り添うブックガイド』(高見京子/編著)を刊行した。司書教諭、学校司書12名が執筆し、子どもでも大人でもない、多感で多くの悩みを抱える青春期・思春期の中高生だからこそ、出会ってほしい本約130冊を収録。読書の醍醐味や中高生への本の手渡

し方に加え、読書会での生徒たちの反応や、委員会活動の様子も紹介されるなど、読書活動、読書指導のヒントが詰まっている。また、中高生たちからおすすめの本の紹介コーナーもあり、中高生たちに向けた、作家 小手鞠るいさんのエッセイも収録されている。
A5判、176ページの本書
は、本体価格1800円 IS
BN 978-4-7933-



中高生を対象としたブックガイド『青春の本棚』

埼玉・高校図書館司書の「イチオシ本」

この1年の「イチオシ本」を
ライブ配信で発表!

埼玉県の高校図書館司書たちで運営する「埼玉県高校図書館フェスティバル実行委員会」は、2月12日(金)20時より、「埼玉県の高校図書館司書が選んだイチオシ本2020」をYouTube公式チャンネルでライブ発表する。

「イチオシ本」は、新刊図書より「高校生にぜひ薦めたい」1冊を県内司書による投票で決める。11回目となる今回の投票対象図書は

0100-1。書店、または、全国SLAネットストアより購入できる。
●全国SLAネットストア
https://sla-official.ec/



【左】書店店頭でのフェアの様子
【右】公式キャラクターの「イチ王子」



YouTube公式チャンネルで、これまでの「イチオシ本」タイトルと各種コメントが見られる。
●埼玉県高校図書館フェスティバル
https://sheet2011.net

2018年度 全国読書グループ調査 読書グループお名前調査 その6

総合結果発表

「読書グループお名前調査」も、ついに最終回。総合順位の発表です。当初はベスト10の予定でしたが、せつかなのでベスト20まで発表します。

お名前調査の対象となったのは7部門907個のことばでした。

【部門別ことば数】

- タイトル・キャラクター 206
- 道真 110
- 動物 130
- 遊び 40
- 植物 220
- 食べもの 101
- その他 100

都道府県名、地域名、施設名をそのまま使ったもの(例:校町読書会、チューリップ幼稚園読み聞かせの会など)は除いて集計。「虹」と「レインボー」、「笑顔」と「スマイル」など、日本語と英語は区別して集計しています。

総合ベスト20は以下のとおりです。へ内はグループ数です。

【総合順位】

- 1位 (186) 「たんぼぼ」植物
- 2位 (144) 「ポケット」道真
- 3位 (135) 「森」その他
- 4位 (122) 「ひまわり」植物
- 5位 (110) 「虹」その他
- 6位 (80) 「どんぐり」植物
- 7位 (78) 「玉手箱」その他
- 8位 (74) 「おひさま」その他
- 9位 (71) 「夢」その他
- 10位 (66) 「ママ」その他
- 11位 (62) 「スマイル」その他
- 12位 (58) 「クレヨン」道真
- 13位 (57) 「コスモス」植物
- 14位 (55) 「ふうせん」道真
- 15位 (50) 「つくし、つくしんぼ」植物
- 16位 (49) 「さくらんぼ」食べもの
- 17位 (48) 「なかよし」その他
- 18位 (44) 「わくわく」その他
- 19位 (42) 「ぐりとぐら」作品・キャラクター、「いずみ」その他
- 20位 (41) 「ひだまり」その他

1万2364の読書グループの名前に使われている、7部門907個のことばより、総合1位に輝いたのは「たんぼぼ」。2位との差は42グループと、圧倒的な人気でした。今年度の「優良読書グループ」にも「たんぼぼ」を名前としたグループが複数、あります。だれにとつても身近な花であること、春を迎えるワクワクした気持ちや想像させるからでしょうか。また、小学校や幼稚園などで活動しているグループでしたら、新入生たちが通う通学路にも咲いていること親しみやすさと考えてのことかもしれません。

たんぼぼの花からは太陽もイメージされますが、同様のイメージで語られる「おひさま」が4位、太陽そのものの「おひさま」が8位、太陽のぬくもり「ひだまり」が20位。インドア派の趣味として真っ先にあげられることの多い読書ですが、この結果を見ると、案外と陽光の下で楽しみたいと考えている人がいるのかもしれない。

ひそかに編集部が1位と予想していた「ポケット」は、惜しくも2位。同じく上位に予想していた「ぐりとぐら」は19位でした。

ベスト20には、特別なものや現象ではなく、普段の生活で普通にみるもの、ふれるものが並びました。子どもたちが自然に本好きになり、あたり前に本を読んでくれるようになってほしい、という思いが感じられます。また、全体として、明るく温かい印象のことばが多い結果となりました。

総合ベスト20のうち、一般の本グループの名前に多く使われているのが、12位の「コスモス」です。けして派手な花ではないけれど、しつかりと根を張り、秋風にそよそよと揺れながら咲いている姿、一本だけでなく何本もよりそうように群生しているたずまいが、仲間とともに本を読む、本を届ける気持ちと重なります。

20位までのことばを部門別で集計すると、「その他」11(うち自然関連5)、「植物」5、「道真」3、「食べ物」1、「作品・キャラクター」1となりました。

907のことばのうち、1グループのみに使用されていたのことばは、全体の35%となる319ありました。部門別に見ると
タイトル・キャラクター 100
道真 34
動物 41

- 遊び 12
- 植物 85
- 食べもの 39
- その他 8

「タイトル・キャラクター」部門は半数近くが1グループのみの使用と、ほかの部門に比べて使われていることばが多くなっています。逆に「その他」部門は、それぞれのことばがある程度の数のグループに使われており、1グループのみの使用はわずか8です。

6回にわたりご紹介してきた「読書グループお名前調査」。「全国読書グループ調査」で報告いただいたグループのみが対象ですので、まだまだ隠れた人気のことばがあることでしょう。次回の「全国読書グループ調査」は2023年度の予定です。「読書グループ調査」本体だけでなく、今回の「お名前調査」の結果を踏まえ、活動内容や発足時期と名前の関係など、もう少し踏みこんだ集計・分析ができればと考えています。



優良読書グループの歩み (1)

2020年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

おはなし広場

代表者 北畠 千春

青森県北津軽郡板柳町

〈推薦〉
青森県読書推進運動協議会

絵本を読んだあとの「お・し・ま・い!!」、子どものかわいい声に癒やされて、はや20年。町の呼びかけで読み聞かせに興味のある有志が集い、2001年に設立。以来、赤石前代表とともに活動してきました。そして、3年前に代表を引き継ぎ、現在女性10名、男性1名の計11名の顔ぶれで活動しています。

活動は、世の中がさまざまな変化していくため、そのつどみんなが話しあい、最善の策を取るよう心がけています。最近では感染症対策で子どもたちとの間にビニールシートで境界を作ってみました。絵本が見えづらいことがわかって、フェイスマスクに変えました。

ところ表現しやすくなり、好評を得ました。

おもな活動として、月に一度のおはなし会をメインに、年に一度の小学校・保育所への出張おはなし会を開催しています。行事にあわせた打ちあわせともなると、本番前に2・3回集まります。2時間あまりの打ちあわせとはいえない、だいたい半分程度は笑いあり、悩みあり、おいしいお菓子とコーヒーあり……の情報交換の場となります。「広場」は長きにわたっての仲間ですので、たがいを尊重しあうコミュニケーションのひとつといっても過言ではないと感じます。

定例のおはなし会も1〜3年生の児童が中心になるので、3年ぐらいたんまり内容を重複しないよう工夫。それにいちばん役立つのが、ずっと記入し続けてきた2冊の活動ノートです。日時・演目・感想などの項目にわかれていたので、「あれ? いつこのおはなしがあったっけ」とふり返ることがで

き、重宝しています。最近では著作権というデリケートな部分も視野に入れ、新しい読み聞かせに挑戦したいと、「書画カメラ」を利用して小さい絵本を大きく伝えることも思案中です。

私自身、幼少のころ夢中になった1冊の絵本がありました。本に携わる機会が増えた数年前、思いがけなくその絵本に出会えたときは、大人げなくもドキドキし、とてもうれしかったことを覚えていきます。

活動の源、そして永く続けられているのは、自分が楽しいと感じた絵本を読み、子どもの笑顔から私たちが元気をもらおうという最大のメリットがあるからです。私た



2019年のこどもの読書週間「時のおはなし会」

ちは、多くの子どもたちが読み聞かせを通して読書に親しむきっかけとなってくれたらいいなと思いつつ、今後も活動を続けてまいります。

おはなし広場「どんぐり」

代表者 河合 裕子

岐阜県関市

〈推薦〉
岐阜県読書推進運動協議会

私たちは、1986年に関市が主催した「絵本の読み聞かせ講座」修了生の有志でサークルを結成し、図書館で読み聞かせボランティア活動をはじめました。翌年度の読み聞かせボランティア講座修了生も仲間になり、図書館の片隅で絵本や紙芝居の読み聞かせボランティア活動の輪を広げ、1989年におはなし広場「どんぐり」としてスタートしました。

現在は発足当時からメンバーは2人となりましたが、40歳代から70歳代までの9人で活動しています。

当時の講座担当の先生から、読み聞かせボランティアの資質向上のためには「保育現場に向かい子どもたちへ絵本の読み聞かせを

特別講演ではすべて手づくりの舞台を披露!



実践することがいちばんの近道だ。」とのアドバイスを受け、児童閲覧室だけでなく保育現場にも出向くようになり、徐々に活動の輪が広がっていきましました。保育現場で子どもたちがとても喜んで絵本や紙芝居を聞いてくれ、読み手と聞き手の一体感を実感できたことが、現在にいたる活動の原点となっています。

おもな活動は、毎週土曜日に関市立図書館でおはなし会として行っている絵本や紙芝居の読み聞かせボランティア活動で、30年余にわたり続けています。

また毎年12月には、ほかの読み聞かせ団体と共同して、おはなし会の特別企画クリスマススペシャル

ル公演として、読み聞かせのほかにも人形劇や手遊びなどを披露しています。いまままでに上演した大型紙芝居、ペープサート、パネルシアター、ブラックシアター、人形劇などの作品はすべて会員の手づくりで、音楽も作品にあわせて作曲し、公演時には生演奏のBGMとして作品を盛りあげます。作品のすべては、会員が知恵と得意分野を生かしてできあがった作品ばかりで、思いついたばいばいの私たちの大切な財産です。ホールが満席になるほど多くの家族が来場され、舞台と会場が一体となるクリスマススペシャル公演は、私たちの活動の励みになっています。

そのほかの活動として、クリスマススペシャルの作品を持って、保育現場に出前公演に行きます。どこの会場でも、子どもたちが真剣な眼差しや豊かな表情で物語の世界に入ってくれます。子どもたちと過ごす時間はとても貴重で、私たちは子どもたちからもうパウワーを糧に活動を続けています。

ストーリーテリングの会「おはなしの森」

代表者 鳥羽 啓子
鹿児島県鹿児島市
鹿児島県読書推進運動協議会
(推薦)

ストーリーテリングを学びたいという有志が集まり、2005年に学習会がスタートしました。同時に、基礎となる児童文学とわらべ歌の学習もはじめました。毎月の定例会とわらべ歌講座、年2回の講師をお招きしての特別例会を続けています。

また、他県のグループとの交流学习会や語り手を招いてのおはなし会を開催し、会員の資質の向上を図っています。そのほかにも、子どもゆめ基金助成による講座や講演会を開催し、学びの場を広げています。これらの取組で会員が学んだことを同じ思いを持つそれぞれの地域の仲間たちに伝えることで、活動の輪を広げています。

「おはなしの森」は、代表者(会計、監査各1名、運営委員6名(各地域から2年交代制))から構成されますが、「全員が代表」がモットーの会ですので、全員で役割分担をしています。特に、特別例会の企

画・運営には会員全員が関わっています。

定例会は、全員参加が原則ですが、仕事を持っている人もいるため、短い時間で充実した内容になるよう心がけています。

昼食時間は、みんながそろい、各自が持参したお弁当を食べるとともにぎやかな時間です。そのほかにも、年1回の親睦会、他県の同じ活動のグループとおはなし交流・学習の旅などを行っています。

私たちは公共図書館や園・学校からの要請に応じて、おはなし会や読書指導の講師として会員を派遣することがあります。これまで経験してきたことや定例会などで



奄美で開いた交流会の様子

学んできたこと、一流の講師から学んだこと、全国のストーリーテリングのグループとの交流から得たもの、それらすべてを「おはなしの森」のフィルターを通し、私たちのことばで伝えていきます。

また、子どもや大人におはなしを届ける機会にも恵まれます。子どもたちや大人の方々にたくさん耳からの読書(ストーリーテリング)で物語を聴いてもらうことが、読書の楽しさにつながってほしいと願っています。

地方の都市でのささやかな読書活動ですが、地道に例会で学習会を続けながら、一流の講師を招いて質の高い学習会を行ったり、東京子ども図書館からおはなしの講座の講師を派遣していただいたりしています。毎年、伊東明美さんのおはなしの講座も続けています。そのほか、全国の同じ活動を続けている方々との読書に関する情報交換や交流学習会で刺激をいただくことで、会に活気をいただいています。

目に見えない、すぐに効果があるからわかれるものではありませんが、耳から聴いた物語の世界は子どもたちの心に残り、生きる力を養い、大人の読書に繋がっていくことを願っています。

「第53回 優良読書グループ表彰」追加のお知らせ

『読書推進運動』366号(2020年11月15日発行号)に掲載いたしました「第53回 優良読書グループ一覽」に、2020年12月8日付で広島県より推薦いただきましたグループを追加いたします。

表彰グループ名

お話しサークル「けやきつ子」
グループ所在地 広島県尾道市
代表者名 山崎愛理佳
(敬称略)

絵本プレゼントのお知らせ

栃木県茂木町の自然体験施設「ハローウッズ」は、子どもたちが森を通じて生物多様性の大切さを知り、自然との共生を考えるきっかけとして、絵本『森へおいでよ』(阿部夏丸・文、本山賢司・画)を刊行した。施設内売店でのみの販売だが、コロナ禍でレジャーを楽しむめない全国の子どもたちに読んでほしいと、希望者30名(先着順)に同書を寄贈する。希望者は左記まで、はがきでお申し込みを。

《申し込み先》

〒106-0003-1
東京都港区西麻布1-4-36-216
(株)ベースブレーションワーク
『森へおいでよ』プレゼント係



標語決定!



2021 第63回

「こどもの読書週間」

いっしょによもう、いっぱいよもう

2021 第75回

「読書週間」

最後の頁を閉じた 違う私が生きた

2020年12月8日(火)、公益社団法人 読書推進運動協議会の「こどもの読書週間」および「読書週間」標語選定事業委員会(出席19名)が開催され、「2021 第63回 こどもの読書週間」と「2021 第75回 読書週間」の標語が決定しました。

第63回「こどもの読書週間」標語の応募総数は一般・会員各社あわせて1210点(選考対象は45点)。第74回「読書週間」標語の応募総数は1387点(選考対象は46点)でした。

選定委員会では「こどもの読書週間」標語、「読書週間」標語の順で協議。どちらも、事業委員による数回の投票(第3回投票まではメールで集計)で作品を絞り、推薦の弁などを加えて、最終的に各委員の一票投票によって、入選作品を決定しました。

ご応募されたみなさん、社内の応募作をとりまとめたいただいた会員各社の担当者のみなさん、ありがとうございました。

【第63回 こどもの読書週間 標語】

入選(図書カード1万円) 1点

いっしょによもう、いっぱいよもう

和田 真実さん(日販)

次点(図書カード5千円) 3点

ふむふむ、わくわく、どきどきタイム

筆谷利佳子さん(小学館)

キニナル本は、ミニナル本

小出梨孝子さん・飯田彩香さん

友原健太さん(小学館)

しゅっぱつ! 本のせかい旅行

谷口 智子さん(講談社)

佳作(図書カード2千円) 21点

読んで笑って怒って泣いた

キミのそばでまってるよ!

おしえて君の好きな本 ほか

【第75回 読書週間 標語】

入選(図書カード1万円) 1点

最後の頁を閉じた

違う私が生きた

緑川 良子さん(講談社)

次点(図書カード5千円) 2点

新しい生活、変わらない贅沢。

天野 耕平さん(講談社)

いつかじゃなくて、今読もう

小出梨孝子さん・飯田彩香さん

友原健太さん(小学館)

佳作(図書カード2千円) 18点

読むのも、読んで、

読む夜もぐりたいたいのは本の森

読み足りない。

読み終えた。世界が少し違う色。 ほか

事務局報告(12月)

☆1日「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット 出来

☆3日「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会・分科会に出席

☆4日「機関紙『読書推進運動』637号、年賀状入稿」

☆5日「JBBY世界の子ども本講座『ミюнヘン 国際児童図書館と『ホワイト・レイブンズ』オンライン参加」

☆7日「機関紙『読書推進運動』637号 責了」

☆7日「よたかかずひこさんより「子ども読書の日」ポスターイラスト受け取り」

☆8日「2020年度 全体事業委員会」および「第63回 こどもの読書週間標語選定事業委員会」「第75回 読書週間標語選定事業委員会」開催

☆8日「ポスター・デザイン」依頼

☆10日「図書館を使った調べる学習コーナー」(主催:図書館振興財団)

☆10日「図書館を使った調べる学習コーナー」(主催:図書館振興財団)

☆14日「第63回 こどもの読書週間」ポスターデザインを杉浦康平事務所

に依頼

☆15日「機関紙『読書推進運動』637号、年賀状 出来

☆16日「伊藤忠記念財団と来年度「子ども文庫助成事業」について打ちあわせ

☆18日「よたかかずひこさんと「子ども読書の日」ポスターについて打ちあわせ

☆18日「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会・分科会に出席

☆21日「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット年内発送受け付け締め切り

☆22日「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会に出席

☆25日「図書館を使った調べる学習コーナー」最終審査会に出席

編集部 & 事務局のひとこと

●新年あけましておめでとうございませう。いつも締め切りギリギリに書くこのコーナー、ただいま仕事はじめの1月5日、東京など1都3県では夜間外出自粛の要請が決まり、緊急事態宣言の発令も検討され、めでたさのかけらもない状況ではあります。が……

●お正月、いただいた年賀状を見ていた夫が、「今年は写真入りのが少ないな」とボツリ。外出が制限されたからでしょうか、例年旅行先での写真や子どもの入学・卒業など節目の家族写真を送ってくれる人たちが、ほほみんな、イラストの年賀状でした。私たち夫婦も、ここ数年はマラソン大会で撮ってもらった写真を使っていたのですが、昨年は走る予定だった大会がすべて中止。なんとか使えそうな写真を見つけたらいいなと悩んでいました。

●昨年から「印刷会社」にせよつられていくけど、行事の写真がないから、卒業アルバムがなかなか発注できない」と、高校3年生の担任である夫がこぼしていました。家族単位でも写真が少ない(子どもが成長し、家族写真をいやるようになってきた可能性も考えられる)、一年だったのだからと再確認。いつも社交辞令半分で受け取っていた「みんなで会いたいね」「お花見したいね」などのメッセージが、切実に身にしみたお正月になりました。●まだコロナ禍が続きますが、終わりがきつくとくると信じ、いまできることに取り組んでいく、そんな一年にしたいと思います。(伸)